

令和 3 年 6 月 2 日現在

機関番号：34416

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K18251

研究課題名（和文）ベトナム北部地域における仏教典籍流通の史的研究

研究課題名（英文）A Historical Study of Buddhist Literature Distribution in Northern Vietnam

研究代表者

宮嶋 純子 (MIYAJIMA, Junko)

関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員

研究者番号：80612621

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ベトナム刊行仏教典籍を手掛かりに、東アジア漢文仏教圏の一員であるベトナム仏教の特質や独自性を考察し、典籍の流通を通じた中国との仏教文化交流の実態の把握を試みた。特に重点を置いたのは、バクザン省ボーダー寺の所蔵典籍の調査である。ボーダー寺での調査を踏まえて、17-18世紀以降のベトナムにおける「中国からの仏教典籍の流入～ベトナム版の刊行～再刊」の過程を整理し、ベトナム刊行仏典が単純な中国仏典の覆刻版ではなく、独自の価値を持つ重要な資料であることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、従来、日本の学界においてほとんど知られていなかったベトナム刊行仏教典籍について、研究機関所蔵の基礎的な資料と共に、新出資料を含むバクザン省ボーダー寺所蔵典籍を紹介した。これらの典籍が内容や刊行形態において、中国・朝鮮・日本で出版された仏教典籍とは異なる独自の特徴を持つことを明らかにし、東アジア仏教史研究に新たな視座を提供したことに本研究の意義がある。この成果を基礎として、ベトナム刊行仏教典籍に関する多面的な研究の発展、ボーダー寺以外の寺院所蔵典籍や木版版木の調査の進展が期待される。

研究成果の概要（英文）：This study examines the characteristics and uniqueness of Vietnamese Buddhism as a member of the East Asian Chinese Buddhist sphere, using the Buddhist scriptures published in Vietnam as a guide, and attempts to understand the actual state of Buddhist cultural exchange through the circulation of the Chinese Buddhist scriptures. Special emphasis was placed on the survey of the collection of the Bo da Temple in Bac Giang Province. Based on the research conducted at the Bo da Temple, We organized the process of "the influx of Buddhist scriptures from China, the publication of Vietnamese editions, and their republication" in Vietnam since the 17th and 18th centuries, Buddhist scriptures in Vietnam revealed that is not a simple reprinted of Chinese Buddhist scriptures, but is important materials has unique value.

研究分野：東アジア仏教史

キーワード：ベトナム仏教史 東アジア仏教史 典籍刊行史 東アジア出版史

## 1. 研究開始当初の背景

### 1-1. 研究の動向

近年、仏教史をアジア史・東アジア史全体の枠組みの中で理解する試みが盛んにおこなわれている。その背景には、中世以降現代に至るまで、日本仏教においてインド・中国・日本という三国を仏教伝来の中心軸と見做し、他地域の仏教が軽視されてきた傾向への反発がある(注1)。

既に概説書・研究入門書においては、日本・中国と共に東アジア漢字文化圏に属する朝鮮半島及びベトナム地域の仏教史が総合的に取り扱われている(注2)。しかし、特にベトナム地域の仏教に関しては、中国から伝来した漢字仏教が主として行われているにもかかわらず、従来その注目度は未だに非常に低く、歴史や独自性、日中仏教との交流史などあらゆる方面に関する研究が立ち遅れている。

### 1-2. 背景と課題

ベトナム仏教史研究が困難な要因として、文献史料の不足が指摘される。

前2世紀から10世紀まで、中国諸王朝の支配下にあったベトナム北部地域は、交趾郡或いは交州と呼ばれた。交州はアジアにおける仏教文化の人的・物的交流の重要な拠点であり、仏教が盛行していたことは早くから指摘されてきたが、その実態についてはほとんど不明である。

一方、10世紀前半、唐朝末期の中国より独立して以後、李朝・陳朝等を経て19世紀の阮朝に至るまでのベトナム独立王朝期の仏教に関しては、碑文資料の豊富さがまず指摘される。近年、ベトナム漢喃研究院所蔵の数万点～数十万点に及び碑文拓本が陸続と影印出版されているが(注3)、個別の研究はまだ進んでおらず、現状、ベトナム仏教史の総合的理解に資するための活用法が模索されている途上である。仏教史に関する典籍資料の研究も同様に発展途上にあり、当該時期のベトナム仏教の全体像を把握するのは困難である。

## 2. 研究の目的

本研究は、ハノイを中心とするベトナム北部地域において流通した仏教典籍の収集と分析を通じ、当該地域における仏教受容史の実態解明を目指すものである。ベトナム仏教史については、近年特に東アジアの研究者の注目を集めているが、文献史料の収集と整理に関しては、まだ不十分な点も多い。本研究では、代表者のこれまでの現地調査に基づき、ベトナム北部地域の各寺院が保存する仏教典籍及び文書類を総合的に調査する。中国や日本等他地域からの典籍の流入状況や、ベトナムにおいて刊行された典籍の特徴を分析し、ベトナム仏教の特質や文化交流の実態を把握する一助としたい。

## 3. 研究の方法

代表者はこれまで中国仏教史を専攻し、文化交渉・異文化受容の視点から中国における仏教文化の受容と変容について考察してきた。その研究の一環として実施した、ベトナム北部地域の仏教関連史料の調査の際に得た知見をもとに、本研究の着想に至ったものである。

本研究は、主としてベトナム、特に北部地域で流通した仏教典籍を用いて行う。資料の所在は大きく以下の二種類に区分される。

- 1、ベトナム漢喃研究院・ベトナム国家図書館等の研究機関所蔵の典籍資料：20世紀初頭以来、フランス及びベトナム諸機関が収集した仏教典籍。既に目録(注4)が公刊されている。
- 2、ベトナム北部寺院所蔵の典籍・版木資料：代表者がこれまでに実施した、ハノイ市内及び北部バクニン省・バクザン省における寺院調査の過程で、幾つかの寺院に保管されている仏教典籍や経典の版木を実見する機会を得た。特に、バクザン省のボーダー寺(Chùa Bồ Đà、補陀寺)が所蔵する版木や多くの典籍については、若干の現地研究者が存在を知るのみであるが、その中にはベトナム刊行の仏教典籍のほか、中国から持ち込まれた典籍等多種類があることがわかった。またハノイ市内の蓮派寺(Chùa Liên Phái)等においても未調査の典籍や版木資料があるのを確認しており、その他の寺院についても情報収集や調査の必要があると考える。

本研究では、特に上記2に挙げた、バクザン省ボーダー寺所蔵資料の調査を重点的に実施し、上記1の既存資料との比較を行い本資料群の特徴を明らかにする。さらに、収集したベトナム刊行仏教典籍について、序文や刊記・芳名録等の分析を通じて各典籍のベトナムにおける出版の経緯やその特徴を明らかにし、ベトナム仏教史を典籍流通の側面から考察する。

(注1) 林淳「仏教と多神教をめぐる比較宗教学的な研究・覚書」『人間文化』27、2012年

(注2) 川本邦衛「ヴェトナムの仏教」(『アジア仏教史・中国編 東アジア諸地域の仏教』佼成出版社、1976年)や石井公成「ベトナムの仏教」(『新アジア仏教史10 朝鮮半島・ベトナム漢字文化圏への広がり』、佼成出版など)

(注3) 『漢喃文刻拓本総集』(vol.1-vol.22)

(注4) 『越南漢喃文献目録提要』(正編・補遺、劉春銀・王小盾・陳義主編、台湾中央研究院中國文哲研究所、2002-2004年)

## 4. 研究成果

### 1. バクザン省ボーダー寺所蔵典籍資料の調査

2017～2019年にかけて、ベトナム社会科学院宗教研究院・バクザン省博物館・本寺住職ティック・トゥック・ヴィン(Thích Tục Vinh)師等の協力のもと、所蔵典籍資料について調査及び序文・刊記等の写真撮影を行った。

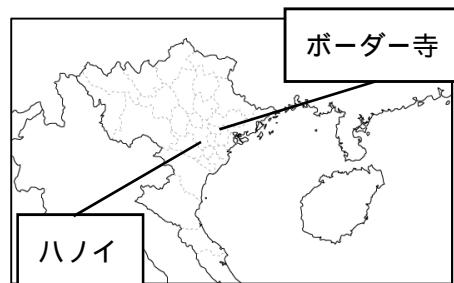
以下はその概要である。

所在：バクザン省ヴィエトイエン県ティエンソン社  
xã Tiên Sơn, huyện Việt Yên, tỉnh Bắc Giang

寺名：補陀山観音寺 chùa Quan Âm núi Bồ Đà、  
四恩寺、一般にボーダー寺・ボー寺と呼称

歴史：後黎朝の保泰年間(1720-1729)以降、  
古くからの寺院跡にボーダー寺を再建、  
18世紀を通じてほぼ現存の伽藍が完成。

北部ベトナム仏教の中心寺院のひとつとして発展



【ベトナム北部地域】

現在のボーダー寺所蔵典籍群は、18～20世紀初頭にかけてベトナム北部地域で刊行された漢文仏教經典(一部、ベトナムの民族文字であるチュノム文献を含む)及び少数の道教関係文献や字書等から構成される。調査を終了したのは、本寺に所蔵される卷子本典籍のほぼ全て(63種、計291冊)であるが、他にも折本様の典籍等も保有しており、全貌はまだ明らかではない。

北部ベトナムでボーダー寺ほど大量の漢文典籍を所蔵している寺院は他になく、中には以下のような他所で所蔵が確認されていない未知の文献も含まれており、非常に希少性の高い資料群であるといえる。

明・如愚知音撰『妙法蓮華經知音』七卷、阮・明命十一年(1830)三玄門崇福寺刊

後秦・鳩摩羅什訳『梵網經菩薩心地品下』一卷、阮・嗣徳三年(1850)上福靈宝寺刊

明・徳清述『大乘起信論直解』一卷、桂陽福隆寺刊、阮・啓定元年(1916)永厳寺清亨序

### 2. ベトナム刊行仏典の歴史と特徴に関する考察

ボーダー寺での調査結果及び漢喃研究院等所蔵文献等を用いて、ベトナムにおける仏教典籍の刊行事業について整理した。中国の明末清初の混乱期にあたる17-18世紀にかけて、中国～ベトナム間の仏教交流はかえって活発化し、当時中国南方地域で流通していた仏教典籍が多数ベトナムに流入した。これらの中国典籍を底本として、有志の僧侶のグループや帝室貴族の後援者の主導により、ベトナム版典籍が刊行された。具体的に注目したのは、東アジアの特に禅宗で重要視された『仏祖三経』の刊行過程についてである。

1. 『仏祖三経』の成立：宋代の禅学僧・守遂(1072-1147)の註解本である『仏祖三経註』一卷が中国で刊行されたが、中国刊行本は現存していない。

2. ベトナムへの伝来：ベトナム北中部で活動した、中国江西省の僧・明行(1595-1659)により『仏祖三経註』がベトナムに伝えられる。

3. ベトナム版の刊行：明行及び弟子の比丘尼妙慧により、後黎朝の慶徳四年(1652)に『三経日誦』の書名で刊行、この時の刊本は現存せず。

4. ベトナムでの再刊・再々刊：『三経日誦』は阮朝の明命十一年(1830)に上福県報国寺(現ハノイ市)で再刊、さらに嗣徳十一年(1858)宝鼎が補刻を加えた刊本が現存する。

5. 新たな開版：成泰十八年(1906)源蘊等により『仏祖三経』の名で新たに刊行された。本書は、上記『三経日誦』と概ね内容は一致するが、一部の文章が削除されるなど改変もある。

また、『仏祖三経』は、従来、朝鮮や日本で刊行された版本が研究の対象となってきた。朝鮮・日本刊本はいずれも中国元朝期の版本を底本とするが、このベトナム刊行『仏祖三経註』は、これまで知られていなかった中国明代の版本を底本としており、東アジアにおける『仏祖三経』の受容と流通を考える上で欠くことのできない重要な資料であるといえる。

### 3. 研究成果の位置づけ及び今後の展望

従来、日本の学界においては、15世紀の後黎朝以降のベトナム仏教、特にベトナム刊行仏教典籍に関する研究はほとんど行われてこなかった。本研究では、近世期ベトナムに関する基礎的な資料やボーダー寺における新出資料などを紹介し、ベトナムにおける「仏教典籍の流入～ベトナム版刊行～再刊」のプロセスを詳述すると共に、これらのベトナム刊行仏典が中国・朝鮮・日本で刊行された仏教典籍とは異なる独自の特徴・価値を持つことを明らかにし、東アジア仏教史研究に新たな視座を提供したと位置づけられる。

今後はさらに、個別の典籍の刊行過程の調査を進めるほか、『三経日誦』の刊行に携わった比丘尼妙慧に代表されるような女性信者の活動、芳名録の分析を通じた仏典刊行事業の経済的基盤の分析など、ベトナム刊行仏典を用いた多方面にわたる研究の進展が期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 宮嶋純子	4. 巻 53
2. 論文標題 近世ベトナム北部地域における仏典刊行事業	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 155-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00020452	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 宮嶋純子
2. 発表標題 文献資料よりみるベトナム・タンロン都城及び周辺地域の仏寺 李・陳朝期を中心に
3. 学会等名 都城制研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮嶋純子
2. 発表標題 ベトナム・バクザン省ボーダー（補陀）寺所蔵典籍に関する基礎的検討
3. 学会等名 佛教史学会例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮嶋純子
2. 発表標題 従越南佛典刊行事業看東亜佛教文化交流
3. 学会等名 中日古代社会文化史学術研討会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮嶋純子
2. 発表標題 ベトナム仏教史研究における碑文史料活用の模索
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所研究例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮嶋純子
2. 発表標題 ベトナム仏教調査報告 - 聖地安子山を中心に -
3. 学会等名 科研研究集会 アジアの信仰を考える3
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

宮嶋純子「從越南佛典刊行事業看東亞佛教文化交流」（翻訳：曾昭駿）、『中日古代社会文化史学術研討会論文集』、2018年10月、301～310頁 宮嶋純子「北周末より唐代初期における洛陽仏教の動向」、氣賀澤保規編『隋唐洛陽と東アジア』、法蔵館、2020年、241～259頁
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------